

形容詞と副詞の文中での働き(用法)。

(1)形容詞の働き(用法)。

形容詞とは、日本語では「美しい」「半端な」のように「い」や「な」で終わるような語です。英語では、形容詞は語尾が **-ful, -less, -tive, -able, -ible, -ary, -ous, -ic, -ical, -ial, -ual, -ate[ite], -ient** 等で終わるものが多い(全てではない)んです。これからは語尾にも目を光らせて単語は見てみてくださいね。で、そんな形容詞の働きは以下の2つです。

①名詞を修飾する(文の主要素にはならない)。

(ex) a kind girl 親切な少女  
           └─┬─┘ (名)

a girl kind to other people 他の人に親切な少女  
       (名)└─┬─┘

☞形容詞は基本的に、一語で名詞を修飾する場合には名詞の前に置かれ、他の語を伴って全体で名詞を修飾する場合には、その名詞の後ろに置かれる。

②C(補語)になる。

(ex) She is kind. 彼女は親切だ  
       S   V   C


I thought him kind. 私は彼は親切だと思った  
   S      V      O   C

(2)副詞の働き(用法)。


副詞は、日本語で言えば「キレイに」「上手く」等のように「に」や「く」で終わるような語です。英語では、副詞の場合は語尾が **-ly** で終わっているものが多い(これもすべてではない)ですね。さてそんな副詞の働きですが、副詞は文の主要素(S・O・C)には基本的になりません。では文中でどんな働きをするかと言うと、それはひとことで言えば「**名詞以外を修飾する**」ということ。具体的には「**動詞**」「**形容詞**」「**副詞**」「**文全体**」を修飾するのが副詞の働きです。

會中でも動詞を修飾することが最も多く、それが語源にも現れている。副詞はadverbと言うが、これは「ad(～の方に)+verb(動詞)」、つまり「動詞の方へと向かう言葉」というのが元々の意味なのである。


### ①動詞を修飾する


(ex) I studied hard. 私は一生懸命勉強した  副詞のhardが動詞のstudiedを修飾。  
[動詞] ↑


### ②形容詞を修飾する

(ex) She is very beautiful. 彼女はとても美しい  副詞のveryが形容詞のbeautifulを修飾。  
[形容詞] ↑

### ③副詞(句・節)を修飾する


(ex) He did it very well. 彼はそれをとても上手に行った  副詞のveryが、別の副詞、wellを修飾。  
[副詞] ↑

I got there exactly on time. 私は時間きっかりにそこに着いた  副詞のexactlyが、直後の副詞句を修飾。  
[副詞句] ↑

My father died soon after the war ended.  副詞のsoonが、直後の副詞節を修飾。  
[副詞節] ↑

戦争終結の直後に、父は死んだ

### ④文全体を修飾する

(ex) Happily, he did not die. 幸いなことに、彼は死ななかった  副詞のhappilyが、he~diedまでの文全体を修飾。  
[文全体] ↑

文(全体を)修飾する副詞は、文頭、文中、文尾いずれにも置けますが、文尾に置く場合には必ずカンマが直前に打たれます。文頭、文中の場合はカンマはつけてもつけなくてもどちらでもいいです。

(ex) Frankly(,) he will fail. 率直に言うと、彼は失敗するね

He evidently thought it was funny.

彼は明らかにそれをこっけいだと思った

This means some compromise, inevitably.

必然的にこのことは何らかの妥協を意味する

ちなみに、以下の例文では happily は(カンマで区切られていないので)直前の動詞の die のみを修飾しており、最初の例文とは意味が変わってきます。

(ex) He did not die happily. 彼は幸せには死ななかつた



→ ろくな死に方をしなかつた

(3)よくあるタイプの問題。

Q: Judging by his work, the new employee looked ( ).

- ①honest    ②honestly    ③honesty

#### 【解答&解説】

look の語法がポイント。look は「look C:Cのように見える」という語法がある。Cには基本的に「形容詞」か「分詞」をとる。

そこで①の「誠実な」という意味の形容詞の honest が正解となる。

繰り返しになるが、副詞は文の主要素になれない。従って、副詞の honestly が、look の後ろでCになることはありえないのだ。

ちなみに honesty は「誠実さ」という名詞で、これを空欄に入れると、「その新しい従業員は誠実さのように見えた」となってしまい、おかしい(従業員は「人間」であって「誠実さ」という抽象的概念ではない)。

## レクチャー2

### 2.意味の区別がつきにくい形容詞等。

形容詞に関する文法問題で、一番狙われるのが「意味の区別がつきにくい形容詞」です。これらは小まめに一つずつ出やすいものを覚えていくほかありません。しっかり以下を整理してください。

respective :それぞれの

respectful :丁寧な、敬意を表する

respectable:立派な(品のいい)、尊敬できる

respecting :~に関して ☞これは「前置詞」。

literary :文学的な

literate :読み書きできる    ⇔illiterate

literal :①文字の

②文字通りの、平凡な ☞副詞形はliterallyで  
意味は「文字通り(に)」。

pleasing : (人)を喜ばせるような  
pleasant : (人)を喜ばせるような

comparable : 比較できる  
comparative: 比較的な、比較に基づいた

sensitive : (1)繊細な、感受性が豊かな (2)神経過敏の

sensible : 分別のある、賢明な

sensational: 人騒がせな

sensual : 官能的な、好色な

sensuous : 感性の豊かな、感覚的な

sensory : 知覚に関する

narrow: (幅)が狭い ⇔ wide

small : (面積・大きさが)狭い ⇔ large

empty : (容器・乗り物が)からの

vacant: (部屋・座席・地位・時間が)空いている

=available

☞ vacantはemptyと違い、ある空間を占めるべき物(人)が一時的にないことを表す

regretful : (人が〜を)残念に思っている

regrettable: (物事が)残念な

historic : 歴史的に有名な

historical: 歴史上の

social : 社会的な、社交界の

sociable : 社交的な、交際上手な

economic : 経済(上)の

economical : (物が)経済的な、お得な

credible : (物事が)信用できる、信じられる

credulous : (人が)信じ込みやすい、すぐ信用してしまう

creditable : (物事が)賞賛に値する

imaginative : 想像力豊かな

imaginable : 想像可能な、考えられうる

industrial : 産業の

industrious : 勤勉な

valuable : 価値がある

valueless : 価値がない

invaluable : (評価できないくらい)貴重な

cf; priceless (値段がつけられないほど)貴重な、価値がある

☞ ちなみに「価値がない」はworthless。

unworthyは「〜するのに値しない」「ふさわしくない」。

artistic : 芸術的な

artificial : 人工的な

considerable: かなりの、相当な

considerate : 思いやりがある

considered : 熟慮された(上での)

considering : 〜の割りに ☞これは「前置詞」。

favorite : お気に入りの

favorable : (〜に)有利な、(〜に)好意的な

wise : (人格的に)賢い、知恵がある

clever : (知的に)賢い ☞「計算高い」という悪い意味で使

われることも多い。=smart

healthy : 健康な

healthful : 健康に役に立つ

desirable : 望ましい

desirous : (人が)望んでいる

succeeding: 次の、続いて起こる

successful: 成功した success: 成功

successive: 連続した succession: 連続

continual :頻繁な ☞ 間隔を置いて断続的に      dependent :依存している、頼っている  
 continuous :絶え間ない ☞ 途切れないでずっと      dependable:信頼のおける  
 forgetful : (人が)忘れっぽい、物忘れがひどい      shameful : (物事が)恥ずべき  
 forgettable: (物などが)忘れられがちな      ashamed : (人が)恥ずかしい、恥じ入っている  
 forgetting :忘却 ☞これは「名詞」。  
 expensive : (物が)高価な ⇔ cheap[inexpensive]  
 high : (値段が)高い ⇔ low  
 (ex) **This camera is very expensive**[×high].  
**The price of this camera is very high**[×expensive].

### レクチャー3

#### 3.形容詞の限定用法と叙述用法。

レクチャー1で形容詞の2つの働き(用法)について説明しましたね。

- ①名詞を(直接)修飾する
- ②C(補語)になる

このうち①の働きを文法用語で「限定用法」といいます。そして②の働きを「叙述用法」といいます。

全ての形容詞が、この2つの働きができるわけではありません。

たとえば「生きている」という意味の形容詞、living と alive と live を例に挙げてみると、

- ①living は、限定用法、叙述用法どちらにも用いることができる。

(ex) all **living things** すべての生き物  
 He is still **living**. 彼はまだ生きている

- ②alive は、叙述用法のみ。限定用法はない。

○The lion is **alive**.  
 ×an **alive** lion ☞ a living[live] lionがO.K.。

③live は限定用法のみ。叙述用法はない。

○a live whale ☞liveは「物」に対してのみ用いる。living, aliveは「人・物」いずれにも使える。つまりいくら限定用法でも「live Jackson: 生きているジャクソン」等という言い方はない。

×The whale is live. ☞The whale is alive[living].ならO.K.

live のような、限定用法だけに用いられる形容詞として以下のようなものがあります(太字は頻出)。

(ex) **elder**「年上の」 former「(時・順序が)前の」 main「主要な」 mere「単なる」 only「唯一の」

また、alive のような、叙述用法だけに用いられる形容詞として以下のようなものがあります。試験などではこちらの方が頻出です。

(ex) afraid「心配している」 alive「生きている」 alike「似ている」 alone「孤独な、一人の」  
afloat「浮かんで」 ashamed「恥じて」 awake「目が覚めて」 akin「同類で」  
aware「気づいている」 asleep「眠っている」 unable「できない」 worth「価値のある」

覚え際のコツは、上の例を見てもわかるように、**補語にしかできない形容詞は「a」で始まるものが多い**という点です。

☞ただしこれらの形容詞も直後から名詞を修飾することはできる。

(ex) a baby asleep: 眠っている赤ちゃん

最後に、両方で用いられるが、用法によって意味が異なる形容詞というのがあり、以下の表に出ているものは頻出です。その用法による意味の違いは、しっかりおさえておきましょう。

	限定用法	叙述用法
present	「現在の」 your present job 君の今の仕事 present moment 今この瞬間	「出席している」 She was present there. 彼女はそこにいた ☞presentは、直後から名詞を修飾する場合も「出席している」という意味になる。 (ex) the members present 出席したメンバー
late	「故～、亡くなった」 my late father 私の亡き父	「遅い」 He was late for school. 彼は学校に遅刻した

<b>certain</b>	<p>①「ある一定(程度)の」「ある」 a certain profit ある程度の利益 certain jobs ある特定の仕事 a certain man (と)ある人</p> <p>②「確実な、確かな」 a certain fact 確かな事実</p>	<p>①「～を確信して」 I'm certain of the fact. 私はその事実を確信している</p> <p>②「確実な」 He is certain to do the job. 彼は確実にその仕事をするだろう</p>
<b>fond</b>	<p>「優しい、情深い」 a fond mother 優しい母親</p>	<p>「～が好きな」 I am fond of reading. 読書が好きだ</p>
<b>sick</b>	<p>①「ぞっとする」「いやな」 a sick joke ぞっとするような冗談</p> <p>②「病気の」 a sick man 病気の男</p>	<p>①「うんざりして」 I am sick of her. 彼女にはうんざりだ</p> <p>②「病気で」 He is sick in bed. 彼は病気で寝ている</p>
<b>ill</b>	<p>①「悪い、有害な」 ill news 悪い知らせ ill effects 悪影響</p> <p>②「下手な」 ill management 下手な処理</p>	<p>「病気の」 She is ill. 彼女は病気だ</p>
<b>able</b>	<p>「有能な」 an able man 有能な人</p>	<p>「～ができる」 He is able to do it. 彼はそれができる</p>
<b>due</b>	<p>「当然(正当)な」「十分な」 a due reward 正当な報酬 due care 十分な注意</p>	<p>①「～が当然支払われる(与えられる)べき」 The rent is due today. 家賃は今日が期限だ(支払われなくてはいけない)</p> <p>②「～の予定になっている」 「(乗り物等)到着の予定で」 I'm due to arrive today. 今日着く予定です The baby is due in May. その赤ん坊は5月に生まれる予定だ</p>

④illには副詞として「悪く」「意地悪く」「ほとんど～ない」等の意味もある。

- (ex) I was ill at ease. 僕は落ち着かなかった  
Everything went ill. 万事うまくいかなかった  
He spoke ill of her. ⇔speak well of A「Aをほめる」  
彼は彼女の悪口を言った  
An ill-mannered person 不作法な人

⑤dueを用いた以下のイディオムにも注意。

①due to A で「Aが原因で、Aのために」。=because of A

(ex) Due to bad weather the plane was late.

悪天候のために飛行機は遅れて到着した

②in due course[time] で「やがて、そのうちに」。

(ex) The business will pay in due course.

事業もそのうちに採算がとれるようになるだろう

⑥late も副詞としての用法がある。また比較変化などが紛らわしいので要注意。

①副詞の late: 1.(時刻が予定より)遅く 2.(ある期間の)終り近くに  
3.till late:(夜)遅くまで

②later:(形) 1.もっと遅い 2.もっと[より]最近の

(ex) They took a later train. 彼らはもっとあとの列車に乗った

(副) 1.もっと遅く 2.あとで 3.のちに

(ex) She left home later than usual.

彼女はいつもより遅れて家を出た

This man later became a great leader.

この男はのちに偉大な指導者となった

③latter:(形/名) 1.[the latter]後者(の) ⇔the former

(ex) Of these two plans, I prefer the latter to the former.

この2つの計画のうち、私は前者より後者の方が好きだ

2.[the/this/these/one's latter] 後の、後半の、終りの

(ex) the latter half of the twentieth century 20世紀の後半

one's latter days 晩年

④latest:(形) 1.最新の

(ex) the latest news 最新のニュース

2.最も遅い

(ex) He is the latest(形) comer. 彼は一番あとで来た人です

He arrived here latest(副). 彼は一番最後にここに着いた

⑤lately:(副)最近

(ex) What book have you read lately? 最近どんな本を読みましたか

《限定用法と叙述用法の表す意味的な違いについて》

以下の英文の意味の違いがわかりますか。

① He is a **responsible** man.

② He is **responsible** for the job.

③ He is the man **responsible**.

形容詞(分詞)が前から名詞を修飾する(限定用法の場合、その性質は、その名詞が持つ生来の特徴、永続的(本質的)な性質である場合が多いのです。

(ex) Whose is this **red** sweater? この赤いセーターは誰のものですか

「赤い」は「セーター」の持っている特徴を表しており、この場合は変わらない永続的な意味を持ち、同時に他の物と区別する役割を果たしています。

逆に形容詞(分詞)が名詞を後ろから修飾していたり、補語になったりしている(叙述用法の場合、その名詞の一時的な状態を表していることが多いのです。

(ex) She is very **tired** after working hard all day.

彼女は一日中一生懸命働いた後(なの)でとても疲れている

上の英文の場合、tired はC(補語)になっており、「疲れている」というのは「彼女」の現在の一時的な状態を示しています。

Ⓛ本質的で永続的な性質を示す形容詞も、補語として用いられることもある。

(ex) My uncle is very **tall**. 私の叔父はとても背が高い

ただ、一般的には一時的な状態を示す場合は、限定用法よりも叙述用法がよく用

いられるといえる。

そうすると①は responsible が前から man を修飾しているので、「彼は(生来)責任感のある(信頼のおける)人だ」という意味になります。

②は responsible がC(補語)になっているので、「彼はその仕事に対して責任を負っている(その仕事の責任者だ)」という意味になります。

③も responsible が後ろから the man を修飾しているので、「彼は責任者(担当者・事の張本人)だ」という意味になります。

#### レクチャー4

用法が紛らわしい形容詞、副詞。

◎文法問題用には(1)~(14)までをおさえない。

#### (1)「早い」「速い」

◎early, soonは時間的に「早い」のに対し、fast, quickly等は動作・速度等が「速い」。

①early : 1. (予定・定刻より) 早く =soon ⇔late  
(ex) How early[soon] will the show begin?

ショーはいつごろ始まりますか

2. (ある限定された期間内の) 早い時期に ⇔late

(ex) early[xsoon] morning 早朝

early[xsoon] in the evening 夕方の早い時間

②soon : 1. (予定・定刻より) 早く =early

2. (ある時点から時間をおかないで) 早く、すぐに

(ex) Please come soon[xearly]. すぐ来てください

③fast : (運動・速度が) 速い、機敏な ⇔slow

◎「時計が進んでいる」も、fast を用いる(「遅れている」はslow)。

(ex) This watch is three minutes fast.

この時計は3分進んでいる

This watch is two minutes slow.

この時計は2分遅れている

會なお、「(時計が)遅れる、進む」といった意味は、動詞の lose, gainで表現できる。

(ex) My watch loses[gains] two seconds a month.

私の時計は一ヶ月に二秒遅れる[進む]

④quickly, rapidly, swiftly: (動作等が) 速く、機敏に

## (2) 「高い」「安い(低い)」

①high ⇔ low : (値段・給料・賃金・温度等が) 高い ⇔ 安い[低い]

會reasonable[=affordable]は、「(値段が)手ごろな」。

ちなみにsalary「給料」、income「収入」に関してはlarge/smallを用いてもいい。

②expensive ⇔ inexpensive: (物が) 高価な ⇔ 安価な  
=cheap

(ex) an expensive[xhigh] camera 高価なカメラ

This TV set is cheap[xlow]. このテレビは安い

## (3) 「多い」「少ない」「大きい」「小さい」

①大小・多少を large⇔small で表す名詞。

(ex) audience「聴衆」 population「人口」 number「数」 family「家族」 amount「量」

quantity「量」 sum「金額」 income「収入」 salary「給料」 fortune「財産」

會income, salaryについては「high/ low」を用いてもいい。

②[数えられない名詞について] 「(量が) 多い、少ない」は much ⇔ little。

③[数えられる名詞について] 「(数が) 多い、少ない」は many ⇔ few。

④「交通量(traffic)」が「多い・少ない」は heavy ⇔ light。

會ただし、street「通り」の人通りが多い場合にはbusyを用いる。

⑤「頻度」が「多い・少ない」は often, frequent(ly) ⇔ rare(ly), seldom。

## (4) 「広い」「狭い」

①「面積」が「広い・狭い」は large ⇔ small。

②「幅」が「広い・狭い」は wide ⇔ narrow。

## (5) 「重い」

- ① 「(重量等が) 重い」は heavy。
- ② 「(責任・気分等が) 重い」も heavy。  
    會「気分が重い」はdepressed, oppressive、「責任が重い」はgrave, importantも用いる。
- ③ 「(犯罪・刑罰・病気・傷・事態等が) 重い、深刻な、重大な」は serious。
- ④ 「(痛み等が) 激しい」は sharp[acute]。

## (6) 「似ている」

- ①前置詞の like を用いた例文。    ☞前置詞なので、必ず直後に名詞が必要。  
    (ex) Her house is (very much) like mine.  
        彼女の家は私の家と(たいへん)似ている  
        Italy is like a boot in shape. イタリアは形が長靴に似ている  
    會このlikeと共に用いることのできる動詞は be, feel, look, seem, smell  
        scent, taste など。
- ②形容詞の alike を用いた例文。    ☞be[look] alike 等といった形で用いる。  
    (ex) The twin girls are[look] so much alike that I can't tell one from  
        the other.  
        そのふたごの女の子はとてもよく似ていて私には区別がつかない  
        Wealth or poverty is alike to me.  
        金があろうとなかろうと私には同じことだ  
    會alike をはじめ、a ではじまる形容詞は、補語としてのみ使える。つまり  
        「alike+名詞」のように、前から名詞を修飾するということとはできない点  
        に注意。
- ③形容詞の similar[akin] を使って 「A is similar[akin] to B: AはBに似て  
        いる」。  
    (ex) A wildcat is similar[akin] to but smaller than a lion.  
        ヤマネコはライオンに似ているが、より小さい
- ④動詞の resemble を使って 「A resemble B: AはBに似ている」。  
    (ex) She resembles[× is resembling] her sister in appearance but  
        not in character.

彼女は外見が姉と似ているが性格は異なる

⑤動詞の take を用いて「A take after B:AはBに似ている」。

(ex) He takes [×is taking] after his father in disposition.

彼は性質が父親に似ている

☞take afterは「親子関係」に用いる。

⑥動詞の look を使って「A look like B:AはBに(外見上)似ている」。

(ex) This picture looks like that one. この絵はあの絵と似ている  
=The two pictures look alike.

⑦副詞の likewise 「同様に」を用いた例文。

(ex) He hated her, and she hated him likewise.

彼は彼女を憎んだが、彼女も同じように彼を憎んだ

⑧形容詞の same を用いた例文。

☞the same という形でしか使わない。また限定用法で(つまり名詞を直接修飾する形で)用いる。

(ex) in the same way 同様に

We both go to the same school. 私たちは同じ学校に通っています

They were born on the same day. 彼らは同じ日に生まれた

※likelyは「可能性がある」という意味。以下の表現が頻出。

S is likely to V~ :~する可能性がある、~しそうだ

=It is likely that S+V~

(ex) It is likely that he will succeed.

=He is likely to succeed. 彼は成功しそうだ

☞It is likely for him to succeed. とはいえない。

またlikelyは「副詞」として、「おそらく(=probably)」という意味もある。

(ex) He will likely [=probably] be in Paris tomorrow.

彼はたぶん明日はパリにいるだろう

Most likely he will succeed in the test.

おそらく彼はその試験には受かるだろう

I shall very likely stay at home all day.

私はおそらく一日中家にいるだろう

(7) 「できる」「できない」の意味を表す形容詞

- ① 「A(人)は～することができる」……A is able to do[原形]～  
A is capable of doing～  
It is possible for A to do[原形]～
- ② 「A(人)は～することができない」…A is unable to do[原形]～  
A is incapable of doing～  
It is impossible for A to do[原形]～

(8) 「濃い」「薄い」

- ① 「コーヒー、お茶」：strong ⇔ weak
- ② 「味」：thick ⇔ thin
- ③ 「色」：deep(深い), dark(暗い) ⇔ light, pale, faint
- ④ 「(霧、髪、ひげといったものの)密度」：dense, thick, heavy ⇔ thin

(9) ago と before

- ① ago : 「今から〇〇前に」という意味。  
1. 単独では用いない。  
(ex) I have seen him before[×ago].  
2. 過去時制と共に用いる。現在完了時制と共に用いない。
- ② before : 1. 単独で、現在完了・過去時制・過去完了時制と用いる。  
「(今より)前に、以前に、今まで(に)」という意味。  
(ex) I (have) heard of it before.  
前にそのことを聞いたことがあった(ある)
2. 具体的な期間を示すと(the day before, two days before等のような形で)  
過去完了時制と共に用いる。「過去の一時点を基準として、それよりも〇〇日(月・年)前に」という意味。  
(ex) I had met her two years before.  
その2年前に彼女に会ったことがあった  
上例は、「(ある過去の一時点を基準にして)その2年前に彼女に会ったことがあった」ということ。  
(ex) He said he had met her two weeks before.  
=He said, "I met her two weeks ago."

彼女には2週間前に会ったと彼は言った  
上例のように、直接話法の伝達内容の ago は間接話法では通例 before になる。

#### (10) very と much

- ①形容詞・副詞を修飾する「とても」は very、動詞を修飾する「とても(あまり)」は much。

(ex) She is very[xmuch] beautiful. 彼女はとても美しい  
(形)

He runs very[xmuch] fast. 彼はとても速く走る  
(副)

I don't like the picture much. 私はその絵があまり好きではない  
(動) ㊦動詞を修飾する場合には、動詞の後ろ、または文末に置く。

I like the picture very much. 私はその絵がとても好きだ  
(動) ㊦このように肯定文では「very much」の形で用いる。

- ② much は「比較級」「最上級」を強調することができる。

(ex) It is much better than the others. それは他のものよりはるかに良い  
[比較級] ㊦比較級を強調するmuchは「はるかに」「ずっと」と訳す。

This is much the best. これがずばぬけてよい  
[最上級] ㊦最上級を強調するmuchは「ずばぬけて」等と訳す。

- ③ very は「最上級」を強調することができる(「比較級」を強調することはできない)。

(ex) This is the very best. これがずばぬけてよい  
[最上級] ㊦veryはmuchとは異なり、冠詞のtheの右側に置かれる点に注意せよ。

- ④分詞を修飾する「とても」は

1.現在分詞には very を用いる。

(ex) This book is very interesting. この本はとても面白い  
[現在分詞]

2.過去分詞には much を用いる。

(ex) His attitude was much disliked. 彼の態度はとても嫌われていた

〔過去分詞〕

Ⓢただし、いくら過去分詞でも「受身」の意味を失ってしまった(つまりほとんど形容詞化してしまった)ようなものにはveryを用いる。

a very complicated problem 非常に複雑な問題

I am very tired. 私はとても疲れている

I was very surprised at the news. 私はその知らせにとっても驚いた

Ⓢこの場合、much surprisedも可能。

She came to me with a very worried look.

彼女はとても心配そうな顔つきでやってきた

⑤特定の叙述形容詞では原級にもmuchを用いることがある。

(ex) He was much afraid of her. 彼はひどく彼女を恐れていた

She is much[very] different from her mother.

彼女は母親には全然似ていない

He is much[very] like his brother. 彼は兄にそっくりだ

⑥very は so で言い換えられ、much は greatly で言い換えられる。

very =so

much =greatly

⑦much は「too+形容詞(副詞)」を強調する。

(ex) This is much[×very] too heavy. これは重すぎる

Ⓢこの much は far でも言い換えられる。つまりfar too heavy も可。

⑧much は「前置詞+名詞」を強調できる。

(ex) Much[×Very] to my surprise, he finished it by himself.

大変驚いたことに、彼は一人でそれをやってしまった

⑨much は the same を修飾できる。

(ex) These pictures are much[=almost] the same.

これらの絵はほとんど同じだ

Ⓢmuch the same A で「ほとんど同じA」の意味になる。

## (11) 「まだ」

①still : [通例肯定文で] 「まだ」 「(今も[その時も])なお」

⇔no longer「もはや～ない」

④否定文で用いることもあるがその場合、否定後の前に置くのが普通。

(ex) I **still** haven't written to her.

まだ彼女に手紙を書いていない

④しばしば長く続いていることに対して意外・驚きを表す。英文の中で  
の位置は、not を置く位置と同じ。

(ex) Oh, dear, it's **still** raining. まあいやだ。まだ雨が降っているわ  
He will **still** be here tomorrow. 彼は明日もまだここにいるだろう

②yet : [否定文で]「まだ」「今[その時]までのところ」

④まだ起きていないことに対して驚き、不満を表す。通例文尾に用いる  
が、書き言葉では否定語の直後に用いることもある。yet not の語順  
はない。通例過去時制、現在完了形で用いる。

(ex) He hasn't come home yet. まだ彼は帰宅していない

④肯定文で yet が「まだ」「依然として」を意味することもあるが、  
stillの方が普通。yet を用いると感情的色彩を帯びる。

進行形・継続の意を表す動詞と共に用いる

(ex) The baby is crying yet. 赤ちゃんはまだ泣いている

## (12時を表す副詞と使用される時制

①just now : 1. 「ちょうど今」 ⇨ 現在時制  
2. 「ついさっき」 ⇨ 過去時制

②nowadays : 「今では」 ⇨ 現在時制

③these days : 「このごろは」 ⇨ 現在時制で(時に現在完了形で)

④recently : 「最近」 ⇨ 過去・過去完了・現在完了形で

⑤lately : 「最近」 ⇨ 現在完了形で

(注1)latelyが現在時制と共に用いるのは習慣的反复行為や継続状態にある  
ことを示す場合。

(ex) I'm not feeling well lately. この頃気分がすぐれない

(注2)latelyが過去時制で用いるのは結果が現在まで継続している場合に限る。

(ex) He lately moved into the apartment.

彼は最近そのアパートに引越した

④上記のルールはちょっと細かすぎるので、受験用には以下のルールをおさえ

ておけばいい。

①just や now は「現在完了形」と共に使えるが、just now は「現在完了形」とは共に使えない。

②nowadays や these days は「現在時制」で用いる。

特に nowadays が「現在完了形」では絶対に使わない点に注意。

(ex) Recently[×Nowadays] juvenile delinquency has been on the rise.  
近ごろ少年犯罪が増えた

③recently や lately は「現在完了形」で用いることが多い。

特に recently が「現在時制」では絶対に使わない点に注意。

(ex) Nowadays[×Recently] I go to church. 近ごろ教会に通っているんだ

### (13) 「近い」

①near : [場所的・時間的に] […に] 近い、近くの [to] ⇔far

(ex) The bank is near to the station. 銀行は駅から近い

②close : 「[時間的・距離的に]ほとんど接触するように近い」ことをいう。

(ex) a close view 近景

at close range 近距離で

The hut is close to[×from] the lake. 小屋は湖のすぐ近くにある

The festival is getting close. 祭りが近づいている

Our ages are very close. =We are very close in age.

私たちの年齢はごく近い

會「場所に近い」という意味では、near は**限定的には**(つまり名詞を修飾する用法では)使えない  
限定的に名詞を修飾するには、nearby を用いる。

(ex) She went to a nearby[×near] restaurant.

彼女は近くのレストランへ行った

(注)このように限定的に名詞を修飾するには、nearbyを用いる。逆にnearbyは叙述的に(つまり補語としては)使えない。

(ex) The bank is near[×nearby] to the station.

cf; She went to the nearest restaurant. ☞ややこしいが、最上級のnearestは  
名詞を修飾できる。

會上記のことも含め、near と nearby をもう一度整理してみると、

①near は形容詞、副詞、前置詞の用法がある。

②nearby は形容詞と、前置詞としての用法がある。

両者の違いが大事な点は形容詞での用法。

(1)near は補語としてしか使えず、**名詞を修飾できない**。

○The town is near.

×The near town

(2)nearby は逆に名詞を修飾することしかできず、**補語にはなれない**。

○The nearby town =The town nearby

×The town is nearby.

副詞としての near の例文は以下の通り。

(ex) sit near: そばに座る

(注)この例文では、nearは動詞のsitを修飾しているので副詞と分かる。

#### (14) 「軽い」

① 「(荷物・食事等が) 軽い」は light。

(ex) a light meal 軽い食事

② 「(風邪・痛み等が) 軽い」は slight。

(ex) a slight cold 風邪気味

③ 「(犯罪・傷等が) 軽い」は minor。

(ex) a minor offense 軽犯罪

④ 「(刑罰等が) 軽い」は mild。

(ex) a mild punishment 軽い罰

⑤ 「(行為等が) 軽率な」は thoughtless。 =rash, imprudent

#### (15) 「遠い」「離れている」

①far : 漠然と遠く離れていることを表わし、**通例否定文・疑問文**で用いる。

肯定文ではa long way (off[away])などを用いる。ただしtoo, so, as, very, away, offなどを伴うときは肯定文でも用いられる。

○My house is a long way (off[away]) from the station.

私の家は駅から遠い

×My house is far from the station.

○Is the station far from here?

○The house is not far from here.

○How far is it from here to the station?

②distant : 簡単に到達できない非常に遠方を表わす。

×My house is distant from the station.

○The moon is distant from the earth.

③ faraway(形), far-off(形) : farを強めた形でやや堅い語。remote(形) は辺  
ぴ・不便さを暗示し到着の困難を表わす。

(ex) a house remote from the village 人里離れた家

faraway places 遠方の場所

④away : 距離や時間を表す名詞の後につけて「○○の距離(時間)を置いて」、  
「○○だけ離れて(先に)」。

(ex) The lake is three miles away[×far] from here.

湖はここから3マイル離れている

The exams are only a week away. 試験までもう1週間しかない

I was two months away from graduating from high school.

高校卒業まであと2か月だった

會上記のような具体的な距離を表す名詞があった場合には far は用いない。

## (16) 「○○ぶりに」

①for the first time in ○○ : ○○ぶりに

(ex) for the first time in 40 years 40年ぶりに

for the first time in ages[(many) years] 久しぶりに

[a long time]

[a long while]

②after ○○ years' absence[away] : ○○年ぶりに

=after an absence of ○○ years

(注)この表現が使えるのは「不在であったのが○○ぶりに帰って来る(来た)」という場合のみ。

(ex) ○I returned home after 30 years' absence.

×I met him after 30 years' absence.

③It has been[It is] a long time since S+V~ 等の形を用いて表現する。

(ex) It's been ages[a long time] since I saw you last. 久しぶりだね

=I haven't seen you for ages[a long time].

- ④「大雨」「大地震」「暑さ」「寒さ」等の程度を表す名詞(形容詞)が「〇〇ぶり(の)」の後に置かれている場合は、最上級を用いて表現する。

(ex) This winter is the coldest in forty years.

この冬は40年ぶりの寒さだ

This was the heaviest snowfall in ten years

これは過去10年間で最も多い雪だった ⇨ 10年ぶりの大雪

This is the severest earthquake in fifty years.

これは過去50年間で最もひどい地震だ ⇨ 50年ぶりの大地震

### (17)「ある～」

- ① a[an]～ : その詳しい内容についてははっきり知らない場合に用いる。
- ② some～ : a[an]と同様、単数名詞の前について、はっきり知らないときに用いる。無関心や軽蔑の意味がこもることがあるので堅い文章には用いない。
- ③ a certain～ : 人や物について、知っていても明らかにしないときに用いる。
- ④ one～ : 主に時を表す名詞の前に用いる。

(ex) He set out on a trip one day in May.

5月のある日、彼は旅行に出かけた

### (18)「きびしい」 ①と②だけ覚えておけばいい。特に②は要注意。

- ① strict : 規律・規準などを厳守する
- ② punctual : 時間に対して厳格な、時間厳守の
- ③ severe : 人の落ち度や弱点を許さず不親切なまでに厳しい
- ④ stern : 厳格で容赦なく服従を求める
- ⑤ rigid : 頑固なまでに厳しい

(ex) 「厳しい裁判官」 a strict[severe, a stern] judge

「厳しい規律」 rigid[severe, stern, rigorous] discipline

「厳しい罰」 a harsh[severe] punishment

「冬の厳しい寒さ」 the intense[severe] cold of winter

「厳しい訓練」 hard training

「厳しい経済状況」 a tense economic situation

「彼は子供に厳しい」 He is strict[severe, stern, harsh(辛く対する)]  
with his children.

He is hard on his children.

◎厳格さの程度はsevereの方がstrictより強い

「あの先生は文法には厳しい」 That teacher is strict about[on]  
grammar.

「今年の冬は大変厳しかった」 We had a very severe[hard] winter  
this year.

### (19) 「はずかしい」

①ashamed : 道徳的な過ちや失敗、愚行について自分自身に罪悪感や責任があつて  
恥ずかしいと思う気持ちを表す。

◎ashamedは「人」を主語とし、「(人が)はずかしい」。叙述的用法のみに用いる。

shamefulは「物事、態度等が恥ずべき」を主語とし(あるいは「物事」を修飾し)、「(物事  
等が)恥ずべき」。叙述的にも限定的にも用いる。

(ex) He is ashamed because he did a shameful[xan ashamed] thing.  
His attitude is shameful[xashamed].

②embarrassed : (一時的に)きまり悪いときや当惑などの気持ちを表す。

③self-conscious : 人目を気にして落ち着かない[あがる]ときの気持ちを表す。

④shy : 内気や引っ込み思案で照れくさい気持ちを表す。

④bashful : 子供特有の恥ずかしさで、大人に用いたときは極端な内気を表す。

⑤humiliated : 屈辱感を表す。

### (20) 「おちつかない」

①uneasy : [...のことで/...のために/人に対して]不安な,心配な,落ち着  
かない

(ex) This tipping business always makes us uneasy.  
チップという面倒なことでいつも落ち着かない

- ②uncomfortable : [...について/人に対して]心地よく感じない、落ち着かない
- ③awkward : [(人が)人の前で]落ち着かない、どぎまぎした
- ④restless : [(人などが)~の事で]落ち着かない、そわそわした  
(ex) a restless child 落ち着かない子供
- ⑤nervous : [...を前にして]不安になって、緊張して、不安な
- ⑥ill at ease : (人前で)不安な、落ち着かない

## (21) 「意外と」

- ①「意外にも(=思いがけないことに)」は「unexpectedly」。  
(ex) Unexpectedly[To our surprise] he turned out to be a famous actor.  
意外にも(=思いがけないことに)彼は有名な役者だった
- ②「意外に(=予期していたより)」は「比較級+than A (had) expected[thought]」。  
(ex) The results of the examination were worse than I (had) expected [thought].  
試験の結果は意外に(=予期していたより)悪かった

## (22) 「(高さが・幅が・長さが)…ある」の表現

- ①wide(形)には、長さの単位を表す名詞の後で「幅が…ある」という意味がある。  
(ex) The river is seventy meters wide. その川は幅が70メートルある  
The box was about six feet long and two feet wide.  
その箱はおよそ長さ6フィート幅2フィートだった
- ②「長さが…ある」という場合には long を用いる。  
(ex) This pole is six feet long. この竿(さお)は長さ6フィートだ
- ③「高さが…ある」という場合には high を用いる。  
(ex) This mountain is 2,300 meters high. この山は2300メートルの高さです
- ④ただし「身長が…ある」という場合には tall を用いる。  
(ex) He is six feet tall. 彼は身長が6フィートあります

## レクチャー5

「～ごとに(1回)」という意味の every がある。

この意味になる every は、以下のような形で用いられます。

①every +基数+複数名詞

②every +序数+単数名詞

①基数とは、one, two, three……。

②序数とは、second, third, fourth, fifth……。

いくつか具体例をあげてみましょう。

(ex) every six hours:六時間ごとに(五時間おきに)  
=every sixth hour

every four years:四年ごとに(三年おきに)  
=every fourth year

every other day:二日ごとに(一日おきに) ☞このように「2」は、otherを用いて表す。  
=every second day

every few weeks:2、3週間ごとに ☞このように「2,3」は、fewを用いて表す。

①単純に日本語の問題なのだが、「四年ごとに」と「三年おきに」は同じことである。したがって「二日ごとに」は「一日おきに」と同じ意味。

## レクチャー6

主語と形容詞。

(1)人を主語にできない形容詞(It is~to do…構文を使う場合が多い)。

(ex)possible(可能な)    convenient(都合がいい)    necessary(必要な)  
impossible(不可能な)    dangerous(危険な)    natural(当然な)

①「(人が)～にとって必要だ」という時はneededを用いる。

(ex) He is needed for the company. 彼は会社に必要(な人)だ

④dangerousについては(dangerousは「危険を引き起こす可能性がある」が元々の意味なので、「A(人)は危険な状態にある」という意味でA(人) is dangerous.とは言わないということ。その場合は A is in danger.と言う。

(ex) You're in danger. 危ないよ!

繰り返しになるが、上記の意味で Ycu' re dangerous. とは言えない。

「Aは(Bにとって)危険だ」という意味では、A(人) is dangerous (to B).と、dangerousが「人」を主語にとることもある。

④possible, impossible, dangerous 等は、tough構文として「人」を主語に取ることはある。

(ex) Our boss is impossible to please[喜ばず]. うちの上司は気難し屋だ  
tough構文とは「S+be動詞+形容詞+to do[原形]～」という形で、「不定詞の目的語 = 文の主語」となるために、不定詞の目的語が省略されてしまう構文。上例でも、to please の目的語は文の主語(our boss)と同じであるためにそれが省かれている。

④naturalが「気取らない」「飾り気がない」という意味の場合は「人」を主語にできる。

## (2)物を主語にできない形容詞(人の能力や感情を表す形容詞)。

(ex)able(できる) anxious(不安な) capable(できる) sad(悲しい) competent(有能な)  
unable(できない) glad(うれしい) incapable(できない) willing(する気がある)

④「物」の能力について述べる場合は、able[capable]が「物」を主語にとることもある。

(ex) The new car is able to drive twice as fast as the older model.  
新型の車は旧型のものより2倍の速さで走る

## レクチャー7

「far from A:全くAではない」と「free from A:Aがない」の区別の仕方。

### (1)far from A

far from A は「Aから遠い」という意味から転じて「Aからはほど遠い→全くAではない」という否定の意味を表します。far from の後には「名詞(の仲間)」以外に(being の省略された)「形容詞」がこれるのも特徴の一つです。そしてその場合、not~at all で書き換えられます。

(ex) He is far from (being) happy. 彼は全く幸せではない

確かに上の英文は He is not happy at all. と書き換えることができますね。また from のうしろには(beingが省略された結果として)形容詞の happy がき

ています。

それから far from は以下のような表現が、決まり文句的に会話ではよく使われます。

(ex) Far from it! それどころじゃないよ

Far from respecting him, I dislike him. ☞ far from doing～で、

私は彼を尊敬するどころか、嫌いなのです 「～するどころか」。

## (2) free from A

free from A のAには「嫌なもの、あってほしくないもの」を表す名詞(不安・心配・苦痛等)が入ります。

(ex) Her composition is free from mistakes. 彼女の作文には間違いがない

上の英文でも、from の後ろには mistakes という、作文(composition)にとっては「あってほしくないもの」がきていますね。

また「be free of A(当然支払うべきもの):Aがない」もおさえておきましょう。

(ex) She is free of debt. 彼女は借金がない

free of charge 無料で

## レクチャー8

「ほとんど (大半) のA/Aのほとんど (大半) 」。

「ほとんどのA」を英語で表現する場合、以下の2つの表現ができます。

### (1) 「(限定されていない)Aのほとんど」

これは「Most A」もしくは「Almost all A」のどちらかで表現します。

「限定されていない」というのは以下の例文を見ればよく分かります。

(ex) Most children like curry and rice. ほとんどの子供はカレーが好きだ  
=Almost all children like curry and rice.

「大阪の子供」「東京の子供」…などといったように、どこの子供と別に限定しているわけではありませんね。「一般的にほとんどの子供というのは」という

意味になります。

## (2) 「(限定された)Aのほとんど」

これは「**Most of the A**」もしくは「**Almost all (of) the A**」のどちらかで表現します。the にはその後にくる名詞を「(1つに)限定する」働きがあるのです。

※theの代わりに所有格が来るともあります。

(ex) **Most of his books** 彼の書物の大半

※Aが代名詞の場合は、the[所有格]はいりません。

(ex) **Most of them** 彼らのほとんど

「限定された」というのは以下の例文を見ればよく分かります。

(ex) **Most of the children in this room are girls.**

この部屋の子供のほとんどは女の子だ

=**Almost all (of) the children in this room are girls.**

上の英文では「この部屋の中の(in this room)」という語句で文字通り「限定」しています。

したがって、以下のようなヒッカケの選択肢にひっかからないようにしましょう。

×Most of A	×Almost A
×The most A	×most 所有格/the A

なお、「**almost A(名)**」という言い方ができないのは、**almost** は副詞だからです(つまり **almost** は直接名詞を修飾できない)。これからは **almost** を「ほとんど」と訳すのはやめましょう。**almost** は「もう少しで」「~同然」と覚えるといいのです。そうすればもう **almost people**(←「もう少しで人間」「人間同然」????) などとは絶対言わなくなるはずですよ。

ただし、**almost everything**, **almost nothing**, **almost anything** といった言い方はありえます。

☞これらは **almost** が **every**, **no**, **any** を修飾していると見る。

(ex) **Almost everybody knows it.** ほとんどすべての人がそのことを知っている  
**He paid almost nothing for the book.**

彼はその本にほとんど金を払わなかった(ただ同然で買った)

otherwise。

(副詞の) otherwise の意味が「さもなければ」だけだと思っている人は勉強不足です。

実は、otherwise は in other way[方法・点] あるいは in different way[方法・点] と考えると見えてくる英文があるので

(1) 「別の(他の)方法で、違ったふうに」

(ex) She thought otherwise.

彼女は違ったふうに考えた ⇨ 彼女はそうは考えなかった

You should have done otherwise. 君は他の方法ですべきだったのに

You could not have done it otherwise than he did.

君は彼がやった以外のやり方でそれをすることはできなかつただろう

⇒ あなたも彼がしたようにするほかなかつただろう

⊕ otherwise than A: Aとは違った方法で(は)

He was otherwise engaged[occupied]. 彼は他の用事で忙しかった

It cannot be opened otherwise than with a key.

それはかぎを使わなければ開けられない

You can arrive much earlier by taxi than otherwise.

タクシーで行けば他の方法よりもずっと早く着きます

(2) 「その他の点で (は) 」

(ex) Mary has a freckled face, but otherwise she is a beautiful girl.

メアリーは顔にそばかすがあるがその他の点では美人だ

Your essay is a little long, but otherwise it is good.

君のエッセイは少し長いがそれ以外は申し分ない

He was leading an otherwise happy and uneventful life in the country.

彼はその他の点では幸せで平穩無事な田舎暮らしをしていた

もちろん「もしそうでなければ、さもなければ」という(接続詞的な)用法も大切です。

(ex) Make haste, **otherwise** you will be late. 急げ。さもないと遅れるぞ

それから otherwise には「形容詞」としての用法もあります。その場合、ほぼ different と同じ意味となり、「～とは違った」「そうではない」と訳します。

(ex) The report said that, but the circumstances were **otherwise**.

報告にはそうあったが、事情は違っていた

Some are wise and some are **otherwise**.

賢い人もいればそうでない人もいる

## レクチャー10

可算名詞と不可算名詞につく数量形容詞。

数や量の「多少」を表す形容詞(数量形容詞)には、

- (1)可算名詞にのみつくもの
- (2)不可算名詞にのみつくもの
- (3)どちらにでもつけられるもの

の3つがあります。それぞれ具体的に見ていきましょう

### (1)可算名詞の複数形につくもの

- ①「ほとんど～ない」

few

only a few ☞「ほんのわずかの～」。

- ②「2、3の～」

a few

☞ a small number of という言い方もあるが a few の方が一般的。

③ 「たくさん」の～ 「多く」の～

many

a number of

☞「the number of A」は「Aの数」という意味。

a large[good/great] number of

numbers of

many a+単数名詞

☞このように「many a」だけは後ろに「単数名詞」をとる。

a great many

quite[not] a few

☞要注意!

(2)不可算名詞につくもの

① 「ほとんど～ない」

little

only a little ☞「ごくわずかの～」。

② 「少しの～、少量の～」

a little

☞ a small amount[quantity] of という言い方もあるが a little の方が一般的。

③ 「多くの、多量の～」

much

a good[great] deal of

☞manyの同意表現とは違い、muchの同意表現は

a large[great/good] amount of+不可算名詞

a good deal ofからquite a

a large quantity of

littleまで、どれも頻出!

quite[not] a little

(3)両方につくことができるもの

① 「ほとんど～ない」

hardly any

scarcely any

② 「たくさん」の～

a lot of

lots of

plenty of

④ some(いくつかの)も、可算名詞、不可算名詞どちらにもつくことができる。  
同じ意味でも several は可算名詞にしかつかない。

(ex) There were some students in the hall.

He gave me some[×several] good advice.

⑤ a handful of も、可算名詞、不可算名詞どちらにもつくことができる「少数(量)の」「ひとつかみの」。

(ex) Please give me a handful of nails[rice].

くぎ[米]をひとつかみ取ってください

## レクチャー11

「ほとんど～ない」と「滅多に～ない」。

(1) hardly[scarcely]とrarely[seldom]の意味の違い。

① 「hardly[scarcely]」は「ほとんど～ない」で「程度」の少なさを表す。

(ex) I can hardly[×rarely] understand you. 電あん scarcely可。

あなたの言っていることはほとんど分かりません

② 「rarely[seldom]」は「めったに～ない」で「頻度(回数)」の少なさを表す。

(ex) I rarely[×hardly] meet him. 電あん seldom可。

私はめったに彼に会いません

(2) 「hardly[scarcely] ever」は「めったに～ない」。

つまり rarely[seldom]と同じ意味。「頻度(回数)」の少なさを表す。

(ex) I hardly ever[×hardly] meet him. 私はめったに彼に会いません

(3) 「hardly[scarcely] any」は名詞を否定し「hardly[scarcely] any+名詞」の形で「(その名詞が)ほとんど～ない」。

つまり「few[little]+名詞」と同じ意味で可算名詞にも不可算名詞にも使える。



頻出! first関連のイディオム。

(1)at first hand: 直接、じかに

(ex) I learned the secret at first hand from her.  
その秘密を彼女から直接聞いた

(2)at first sight: 1.一目で(の) 2.一見したところでは

(ex) I liked her at first sight. 私は一目で彼女が気に入った  
The book looked uninteresting at first sight.  
一見したところ、その本はおもしろくなさそうに見えた

(3)for the first time: 初めて

(ex) I left Japan for the first time in ten years[in my life].  
10年ぶりに[生まれて初めて]日本を離れた

④first が副詞として「初めて」という意味になることもある。その場合、通例動詞の前に置かれる。この first の強調形が for the first time。

(ex) I first met her five years ago. 私は5年前に初めて彼女に会った  
I shall never forget the day we first met.  
私たちが初めて会った日のことを決して忘れません

(4)in the first place: まず第一に

=to begin[start] with

=first of all

=first and foremost

=firstly

(ex) You should explain to me the case in the first place.  
まず第一に君はボクにその件について説明すべきだ

(5) **at first:** はじめのうち(は)

=the first time

(ex) At first, I couldn't eat 'tofu'. 私は、初めは豆腐を食べられなかった

(6) **first or last:** 遅かれ早かれ

=sooner or later

(ex) Truth will be revealed first or later.

遅かれ早かれ真実は明らかになるだろう

(7) **The first[last] time S + V ~:** はじめて[最後に] ~した時

[接]

(ex) The first time (that) I saw him, he was a small child.

初めて会ったときは彼は小さな子供だった

(8) **from the first:** 最初から

(ex) Try again from the first. 最初からもう一度やってみなさい

(9) **from first to last:** 最初から最後まで、終始

(ex) He remained silent from the first to last.

彼は終始黙ったままでいた

(10) **This is the first time S have+p.p. ~:** Sが~するのは今回がはじめてだ

(ex) This is the first time Tom has been upset.

トムが狼狽したのは今回が初めてだ

How soon.

how old, how long, how much...等、「how+形容詞・副詞」には様々ありますが、  
 その中で最も狙われるのが how soon です。

how soon S+V~?で「あとどれくらいで~」という意味になります。ある出来  
 事が起こるまでにどれくらいの時間がかかるのか(要するに「残り時間」)、ある  
 いは一連の出来事の中で、ある出来事が起こるのはいつなのかを尋ねるのに使いま  
 す。例を挙げてみましょう。

(ex) A:How soon will the show begin? あとどれくらいでショーは始まりますか  
 B:In 30 minutes. あと30分です

上例のように「(今から)~後に」という in を用いて答えることが多いですね。  
 また how early との違いもおさえておきましょう。early は「(予定の時間より)  
 早めに」という意味の場合、

(ex) How early did he come yesterday?  
 昨日、どれくらい(予定の時間より)早めに彼は来たの

といったような言い方もありますが、「(ある期間の中の)早い時期に」という意味  
 の場合には、in the morning 等のような、「期間」を限定する語句を伴うのが特  
 徴です。

(ex) How early in the morning do you get up? 朝どれくらい早く起きるの?

副詞の「so」「as」「how」「too」の直後に冠詞の a はこれない。

副詞の「so」「as」「how」「too」の直後には、冠詞の a を置くことができませ  
 ん。したがって、これらの語の後ろに「a 形容詞+名詞」が来る場合、

「形容詞+a+名詞」

の語順になります。例を挙げてみましょう。

(ex) He is so good a boy that he is loved by everybody.

彼はとてもいい子なので、みんなから愛されている

上の英文でも、決して so a good boy とは言えません。

ただし such の場合は直後に a を置くことが可能です。したがって上例は、such を用いて以下のように書き換えることができます。

(ex) He is such a good boy that he is loved by everybody.

また、as には前置詞(～として)もあります。前置詞の as の場合は、直後に a を置くことができます。

(ex) as a good father: 良き父として ☞「前置詞」の as。

副詞の as とは、「as ~ as A:Aと同じくらい~」という場合の as のことです。

(ex) This is not as difficult a question as it seemed at first.

この問題は初めに思ったほど難しくない

ついでに how と too の例も挙げておきましょう。

(ex) How tall a man is he? その人は身長がどのくらいの人ですか

It is too small a hat for you. その帽子は小さすぎて君にはかぶれない

## レクチャー15

「another+数詞(又はfew)+複数名詞(期間[距離]等)」で、another が「あと(もう)~」という意味になる。

「複数名詞」の部分には「距離・期間等」を表す名詞が入ることが多いですね。この表現は「数詞+more+複数名詞」で書き換えることもできます。

(ex) He'll be back in another three days. 彼はあと3日たてば帰るよ  
=three more days

名詞と間違えやすい副詞。

副詞の中には、名詞と間違えやすいものがあります。

以下は副詞なので、名詞のように前置詞を前につける必要はありません。

upstairs「二階に(上の階に)」 indoors「屋内で(に)」 home「家に」  
 downstairs「下の階に」 outdoors「屋外で(に)」 next door「隣に」  
 abroad「海外へ(に)」 overseas「海外で(に)」 downtown「繁華街に」

(ex) I went [×to] **abroad**. 僕は外国に行きました

He carried the bag [×to] **upstairs**. 彼は二階に(まで)カバンを運んだ

home に関しては、名詞としての用法もありますが、**come, go等の(発着往來を表す)動作動詞と共に使われる場合には「副詞」となりますから、その際には注意が必要です。**

(ex) You must go [×to] **home**. 君は家に帰らないといけない

上例では home が go と共に使われているので「副詞」となり、前置詞の to 等は必要なくなるわけです。

-lyが付く形と付かない形で意味が異なる副詞。 會◎は頻出!

dear :「高く」 just :「ちょうど」 ◎hard :「一生懸命に」 ☹hardは形容詞として「難しい」  
 dearly:「切に」 justly:「正當に」 hardly:「ほとんど〜ない」「硬い」「厳しい」という意味もある。

◎most :「最も」 close :「近く」 sharp :「きっかり」 ◎high :「高く」  
 mostly:「たいてい(の場合)」 closely:「綿密に」 sharply:「鋭く」 highly:「おおいに、非常に」

◎short :「急に」 ◎late :「遅く」 ◎near :「近くに」  
 shortly:「まもなく」 lately:「最近」 nearly :「ほとんど→」  
 =soon =recently =almost「もうすぐ→」

なお、～ly となる語の大半は副詞ですが、例外的に語尾が ～ly の形容詞もあります。以下にその例を挙げてみましょう。太字は頻出です。

**lively**:「生き生きとした」    **costly**:「高価な」    **friendly**:「友好的な」    **lovely**:「可愛い」  
**manly**:「男らしい」    **lonely**:「孤独な」    **cowardly**:「臆病な」    **likely**:「可能性がある」「見込みのある」  
**timely**:「時を得た」    **early**:「早い」    **cleanly**:「きれい好きな」    **sickly**:「病弱な」

☞earlyには、副詞としての用法もあり。以下は「早く」という副詞のearlyの例。

(ex) I got up **early**. 私は早起きをした

☞unlikelyは「ありそうにない」(もちろん形容詞)。likely[unlikely]は

①be動詞+likely[unlikely]

②likey[unlikely]+名詞

という形で用いられる。

ただlikelyについては、副詞として使われることもある。その場合「おそらく」という意味でprobablyと同じ。要注意。以下は副詞のlikelyの例。

(ex) Most **likely**, she will refuse the offer.

彼女はおそらくその申し出を断るだろう

He will **likely** be in Paris tomorrow.

彼はたぶん明日はパリにいるだろう

## レクチャー18

副詞の **enough** は必ず後から語句を修飾をする。

(ex) He is **rich enough**[xenough rich] to buy the car.

形容詞の enough は、名詞の前においても後においてもどちらでもかまいません。

☞ただし「pay attention to A:Aに注意を払う」といった慣用句では、必ず名詞の前において「pay enough attention to A:Aに十分な注意を払う」等とする。

(ex) He has **enough money**[money enough] to buy the car.

彼はその車絵を買い足すだけの十分なお金を持っている

レクチャー19

「-thing」「-body」「-one」で終わる複合形の不定代名詞を修飾するときは、形容詞は(一語でも)、必ずその後ろに置かれる。

(ex) Nothing strange happened. 何も変わったことは起こらなかった

(形)

I want something cold to drink. 何か冷たい飲み物がほしい

(形)

レクチャー20

数詞を含む形容詞には複数の「s」はつけない。

ハイフンで結ばれた「数詞＋名詞」が後の名詞を修飾するような場合、必ず「数詞＋単数名詞」にします。理由は簡単で、形容詞に複数形はないからです。

(ex) Oa ten-year-old boy 10歳の少年

×a ten-years-old boy

a three-year plan 3年計画

a ten-dollar bill 10ドル紙幣

a nine-foot bear 9フィートの熊

形容詞の順序。

(1)形容詞を重ねる場合の順序

1	2	3	4	5	6	7	8	
限定詞	序数	数量	性質・状態	大小	新旧	色	材料・所属	
a			cute		young		French	lady
the	second	two		big	old	white	wooden	houses
that	first		ripe	small				orange
Tom's					old	black	steel	chair

「性質 大 新 色 材」と覚えよ！

セイシツ ダイ シン ショクザイ

(ex) a big, white two-story house

④上の例のtwo-storyのような「形容詞用法の名詞」が一番最後(すなわち名詞の直前)につく。

(2)all, both, half, doubleは、the(冠詞)やmy(所有格)やthis(指示代名詞)などの前に置かれる

- (ex) all my friends 私の全ての友人  
 both these girls これらの両方の少女  
 half the price (その)半分の値段